

# 洋画部門(具象) 藤井達矢

## ■入賞作品についての講評■

【市展賞】 坂本達雄さん 「兵士の最期に見た風景」

黄金に輝く麦畑は黄泉の国への道なのか。麦の花言葉には「希望」とあるが、その道の先は果たして…誰かの父であり夫であり息子であろう兵士の頭はすでに射抜かれている。いつまでも繰り返される人間の無意味な営み。幻想と現実が重なる白日夢のような世界を、軽やかなタッチで描き切った。

【優秀賞】 前橋誠士さん 「G 画像」

木版画のように見える線が刻んだ眼差し。鋭い眼光で我々を正視するが、不思議と相対することができる。座禅を組むようなフォルムもあるが、我々自身の自画像をもここに見る。沈黙、内省のとき。

【鉄斎美術館賞】 石田順子さん 「景」

望遠レンズを通して撮影したかのような圧縮空間が再構成され、蜃気楼のように重なる様が面白い。確かな筆致とマチュール、優れたバランス感覚が相まって、画面に心地よいリズムをもたらしている。

## ■全体的な総評■

コロナは 5 類移行し、マスクの着用率もかなり減少した昨今、少しずつ前向きに暮らす日常に戻る兆しがある一方で、止むことのない紛争。そうした世相を捉えた作品も多々見られ、市展賞作品もその典型でした。

洋画(具象)部門には 139 点の応募があり、厳選の結果 116 点を入選としました。コロナ後に制作を再開された方や新たにご応募いただいた方、特に 30 歳未満の新応募枠によって前回は大きく上回りました。

まず全ての応募作品を概観しての第一印象は、どの作品にもしっかりと作者自身の世界観が反映されており、一朝一夕ではたどりつけない魅力を湛えていたということです。今回、全部門通しての応募者最高齢は 97 歳、最年少は 16 歳ということでした。一日之長がある年長者とデジタルネイティブ世代がそれぞれの視座からそれぞれのリアルを表現したアートがここで展覧される意義は大きいと考えます。

市展賞・優秀賞・鉄斎美術館賞をはじめ、奨励賞・佳作、さらに協会員推挙となられた方々の作品には、鑑賞者に語りかける声の強さや豊かさがありました。今後さらなる表現の深化・展開に期待しています。

鑑賞者の皆様、作品群の「声」にどうぞ耳を傾けてみてください。それは、ご自身の心の声でもあるのです。

# 洋画部門(抽象) モリン児

## ■入賞作品についての講評■

【若獅子賞】 前中一太地さん 「season」

紐を白ペンキで絡め画面を作り出している。荒削りながら若さと勢いを感じさせる。将来を期待させる作品である。

【優秀賞】 下 千映子さん 「れ・い・ん・ど・ろっ・ぶ・す 23-3」

帆布を使い縫い重ね独自の彩色を施している。

【優秀賞】 西浦絵理さん 「うつる」

キャンバスに和紙を一旦貼り、剥がした上から藍色で染め物のように彩色された画面は柔らかさの中に、鋭い緊張感が表現されている。

【優秀賞】 福岡雅子さん 「Folding」

キャンバス大の大きな一枚の紙が 3 カ所折られるだけの表現で、その真直ぐに走る直線が作る影の緊張感がイサギいい感じで心地いい作品。

【奨励賞】 相良みつよさん 「森の譜」

絵の具や木片などを厚く塗り重ねられた下地の表面にグレーで上塗りすることで一体感を出し、下地の部分を見せることで画面に厚みが生まれてくる作品となっている。

【奨励賞】 森實春美さん 「im」

乳白色と薄ピンクの大きな色面空間を活かし素早いタッチで描かれた線は、和のテイストがあり日本人の感性がうまく表現された作品。

【佳作】 大山田 溪さん 「だいじなもの」

コピー用紙や広告の裏紙を捨てずに作品として使い画面に合わせて組み合わせ合わせてチャコールによる素早く鋭い線でドーイングされている。アクリル板の 2 画面で繋がるように空間を表現している。

【佳作】 高萩典子さん 「日づけのない記憶」

何層にも重ねられた下地は層になりその上に重ねるように細かく数字や文字が描かれ、何重にも層を作り出して行くような作品となっている。

【佳作】 畠山忠美さん 「夏草の夢」

綿キャンバス地に原色で彩色された上に半透過性の化繊を被せ上から下の色が分かるか分からないかの加減をしながら泥色で覆って行く、キャンバス全体が微妙な色の変化をもった敷面になっている。

## ■全体的な総評■

残念なこと今年の中からは、市展賞に該当する応募作品はありませんでした。ただ、みなさん個性的な表現に挑戦している作品が多いと感じました。しかし、その反面新しい素材や技法を取り入れているのだけれど活かし切れていないなど、未熟さを感じる物が目立った気がします。たとえば面白い素材を用いているにもかかわらず額装のため画面にアクリル板で化粧をしてしまい面白い質感を、充分伝えることができないもの。または CG プリントをそのまま作品化してしまい美術の作品としてはもう一步物足りないもの。そう言うことです。伝えたいことをどう伝えるのか、工夫をすることで、もっと説得力のある物ができると感じました。

今回の出品作には、これから個性のある作品に展開していく可能性を感じ、今後どんどん面白い作品ができてくることに期待いたします。

# 彫刻・立体造形部門

大野良平

## ■入賞作品についての講評■

[市展賞] 大西桃子さん「ぐみ」

滑らかな曲線と直線を生かした造形作品。形のシンプルさを追求する反面、自重で辛うじて立つ危うさは感じます。しかし、そのことで空間をより際立たせることに成功しています。石膏でしょうか。材質が放つ白さが魅力的です。

[優秀賞] 安田正裕さん「Welcome to Dali」

シュールリアリズムの巨匠サルバドール・ダリ。宇宙像に乗るダリをモチーフに紙を巧みに貼り付けて形づくる手法は作者の独自性と軽やかながらも不思議なリアリティーを感じさせます。近年にないスケールのあるダイナミックな秀作となりました。

[鉄斎美術館賞] 生姜梵さん「earthly desire」

容器(箱?)を巧みに積み上げた作品。今までにない造形表現を感じます。タイトルが示す煩惱。緻密に描かれ丁寧に装飾されたそれぞれの容器(箱?)には祈りを感じます。まるでストウパのようにも見えます。

[奨励賞] シュウさん「経つ敷居の塔」

前回に続く「敷居の塔」のシリーズでしょうか。むき出しの廃材(敷居)と黒色に塗装された造形物とのコラボレーション。年月を経た廃材素材の存在感を生かした造形表現の確かさを感じる秀作です。次回の展開を期待しています。

## ■全体的な総評■

過去3年で最多の応募点数となりましたが7点もの作品が選外となったことは残念なことでした。今年新設された「若獅子賞」の対象作品。繊細で緻密な素晴らしい作品でしたがスケールが乏しくデザインの要素が強すぎて選外。近年、装飾的な手工芸作品の応募が多くこちらもことごとく選外。なかには、工芸、デザイン部門であれば入選したのではないかと思う作品もありました。部門にはそれぞれの領域があります。彫刻・立体造形は、空間を扱う芸術です。今回は、スケールを感じさせるダイナミックな応募作品を期待しています。

# 写真部門

高橋靖

## ■入賞作品についての講評・総評■

[市展賞] Chris 園田さんの「Y氏のY字路 2023」は独自性に富む。多彩なテクニックによって、暗闇に浮き出たY字路の実と虚の狭間が表現されている。

[優秀賞] 足立宗真さんの「耽美」はパワフル。若獅子賞にもノミネートされた。ストレートな力強さと、緊張感のあるフレーミングが見事。欲を言えば目にキャッチライトがあればもっと印象が深まったと思う。

[鉄斎美術館賞] 青野裕一さんの「大阪に咲く」は華麗。天に炸裂した花火の下に広大なマンション街が広がる。構成力が巧みである。

[奨励賞] 西野武子さんの「思い出を残して」は率直で気持ちがいい。潮の引いた抽象模様の砂浜にのこされた足跡・・・画面の手前、そして並行に写されたフレーミングが素晴らしい。

[佳作] なかにし宏明さんの「旅人考」に郷愁を感じる。どこかの古い駅舎だろうか？ガラス戸の向こうを急ぐ人影、息遣いが聞こえてきそう。

## ■全体的な総評■

初めて当展覧会の写真部門の審査をさせていただきました。

デジタルが普及するなかで、技術だけが先走りした作品をしばしば目にしますが・・・。当展では、表現意図とデジタルの技術が上手く融合された作品が多く・・・。レベルの高さを感じました。

# デザイン部門

相澤孝司

## ■入賞作品についての講評■

優秀賞の竹村健喜さん「大地の恵」は、地元近隣の風景と葡萄をモチーフにして、切り絵を重ね合わせ奥行き感を出すのに成功した作品である。緻密な技術による表現と構成力を高く評価した。二越としみさん「記憶の樂園」は、モノトーンのコントラストと点状のカラーとの構成力が素晴らしいイラストの作品である。「記憶」とは「樂園」とは？と鑑賞者に問いかけるように思える。仙石吉徳さん「fairy tale」は、画面に構成されているクリスマスイメージした6アイテムのイラストはどれも完成度が高く、色彩感にあふれている。クリスマスツリーの展開図は立体を想像する楽しみがある。

鉄斎美術館賞は、赤木政則さんの受賞となった。滝をモチーフにしてその感動がよく伝わってくる大作として評価した。昨年の奨励賞からレベルアップし、今後を期待する。

奨励賞のSeikoさん「Life」は、SDGsの世界観を独自のイラストのタッチでまとめており、非常に好感度のある作品として評価した。Momo&Lilyさん「SAIUN」は、古いブライダルドレスのアップサイクルの事例としてデザインされた舞台衣裳であり、社会課題の解決のメッセージを感じる作品である。

## ■全体的な総評■

第65回のデザイン部門では、全体的に作品のレベルアップが見られたのは良い傾向である。多数を占める平面の作品は、完成度が高くかつ大判の力作となり、受賞のハードルも高くなってきたように思える。応募点数は、17点(立体の作品は1~2点)と昨年より微増となった。今回も市展賞は該当者なしとなり残念であったが、優秀賞が3点、奨励賞2点を選考することで次回の市展賞につながることを期待する。毎回講評で述べているが、デザイン部門の作品は、領域が広く、自身の表現力に留まらず、SDGsなど社会背景に訴える試みも審査としてのポイントになる。さらなる応募点数の増加と独創的・挑戦的な作品を期待する。

# 書部門

山下啓明

## ■入賞作品についての講評■

【市展賞】 矢持秀峰さん「聴于無聲」

篆刻も、金文、大篆、小篆など古典の学習が基礎です。布置もよく、手慣れています。細い、鋭い線があればさらによいでしょう。

【優秀賞】 岸本紅峰さん「袁宏道詩」

筆力はあります。運筆の変化、間を大切にされると流れがよくなります。

【優秀賞】 西山尚美さん「秋の暮」

俳句の一行ものですが、渴筆の息の長さ、余白が生きています。落款がないのが残念です。

【鉄斎美術館賞】 赤城芳翠さん「若山牧水 歌」

手慣れた運筆、好感がもてます。終筆の余韻を大切に。

【奨励賞】 神山瑞春さん「郭鈺の詩」

真面目な学習態度が伺えます。字間の間の呼吸を大切に。

【奨励賞】 備仲華舟さん「うの花」

まとまりのある作品です。後半の右上がりにご注意ください。

## ■全体的な総評■

書は、古典に立脚し、線を鍛えます。風格が求められます。一朝一夕にはできません。日頃の修練が大切です。残念ながら若獅子賞、該当作品がありませんでした。楷、行、草、字母の展開を理解して作品作りしましょう。

# 工芸部門

香川 弘一 / 村岡 靖泰 / 齋藤 美和子

## ■入賞作品についての講評■

今般のご入賞、誠にありがとうございます。市展賞と鉄斎美術館賞は本年度の審査では、誠に残念ながら該当者なしでした。

今回、陶芸作品の入賞が目立ちましたけれども、それだけ作品の制作努力が感じられたからです。ユニークな作品もあり、次回ものづくり工芸に於いての創作意欲を他の入賞者も同様に日々鋭意努力され、更なる作品づくりに、各人取り組まれますことを念じております。来年は市政70周年を迎えるにあたり、記念すべき年でもあり、多数の工芸作品創りを通じて、人々との交流と自分自身の自己憐憫にも励み、ステップアップをされることを望みます。皆様方の作品は確実に完成度の高い又バランスの取れた良い創作品にも段階的に着実に期待がもてると痛切に全体として感じられましたので、来年へのご応募を期待しております。

### [優秀賞] 岸川博人さん「彩泥花器『思郷』」

スッキリした形と装飾、完成度も高く、好感もてる作品だと思います。

### [奨励賞] 州崎 誠さん「蓮根掛花入れ」

最初「何これ？」よく見ると掛花入れ。言いたいことは色々ありますが、発想のユニークさに奨励賞。

### [奨励賞] 竹内 清さん「サンショクサギ」

サギの表現の細やかさと水の中の魚が楽しく表現され、次の作品に期待します。

### [奨励賞] 天宅 功さん「彩色花鉢」

技術の面では、もう少しガンバッテ欲しいところがありますが、装飾面でオリジナリティーを出そうというところに奨励賞です。もう一步踏み込み、作陶してみてください。次回を楽しみにしています。

### [佳作] 古谷一規さん「ムスビアウ」

発想の面白さと細やかな表現が見られ、今後に期待します。

### [佳作] 山田泰子さん「夜会」

母娘の立ち姿が美しく表現されています。色彩もきれいな作品です。

## ■全体的な総評■

今回の審査にあたり、選外作品としました点をまずコメントさせていただきます。応募者の日々作品創作に於いて、たゆまない努力と研鑽を積み重ねられてこられたこととお察し申し上げます。残念な点は、ジャンル(部門)の応募時点に於いて、工芸でないジャンルが数点あり、ある意味もったいないのではないかと感じます。参考までに、デザイン部門や彫刻・立体造形部門にエントリーされた方が適していると感じられます。

昨年に比べて、今年に審査で印象的なのは、力作が若干少ない様に思いました。又、入選された方も選外の方も来年市政70周年を記念して、更なる創作工夫と既成概念にとらわれることなく、自由な発想と楽しい物創りの工夫を積み重ねながら、ぜひとも諦めずに応募されますようよろしくお願いいたします。

# 日本画部門

潮見 冲天

## ■入賞作品についての講評■

### [市展賞・若獅子賞] 倉橋咲妃さん「白妙」

手馴れた創作に加えて斬新であり感性豊かで色調に妙あり。何よりも全部門から選出された(若獅子賞)を受賞されたことは全てを物語っております。

### [優秀賞] 小脇千賀子さん「古刹の藤」

藤棚を幽玄な世界に導き、優秀賞に相応しい作品です。

### [優秀賞] 西川左希子さん「たゆたう」

澄みきった水、石畳の見えるさま、右上の枝の表現、色使い、全てに於いて実に素晴らしい。小品ではありますが、目を見張るものがあります。

### [鉄斎美術館賞] 土井美智子さん「悠久」

鬱蒼とした木立に木漏れ日が情緒ありと思われませんが、少々しっとり感がほしいところです。

### [奨励賞] 内田義昭さん「去年の華」

植物画的ではありますが、よく描かれております。額装に考慮の要あり。

### [奨励賞] 岡田正弘さん「月下に石津漁港」

しっかりと描かれており、特に鉄塔の表現が良い。月があるのだから海面にもチョットした月明かりがほしいかな。

### [佳作] 川崎まみさん「藤原宮幻想」

手前の蓮等の表現は申し分ありません。バックの建造物(特に柱)は、それこそ幻想的で良いのではないのでしょうか。

### [佳作] 月本紘八朗さん「水墨幻影」

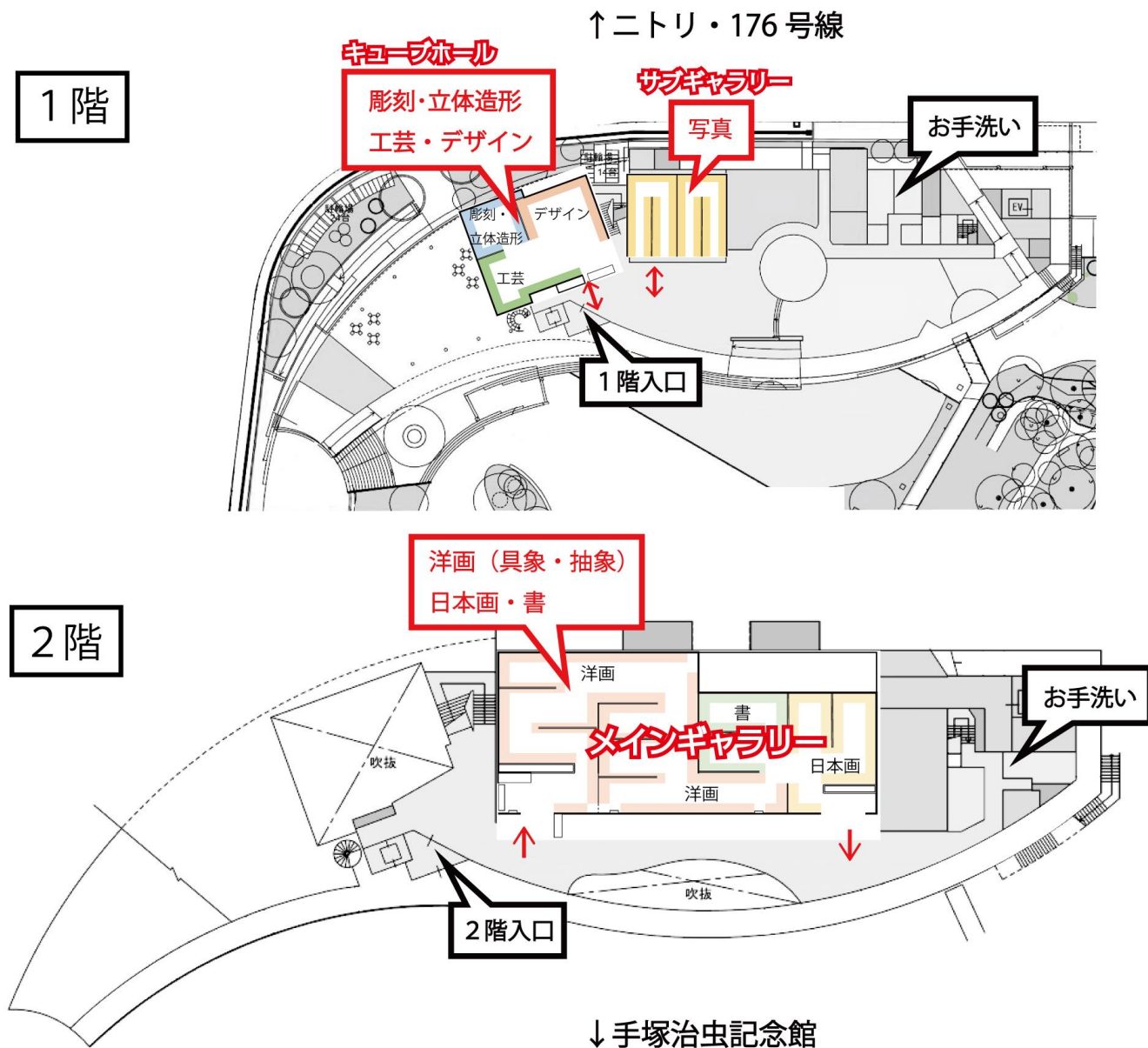
水量墨章の最たるもので優れた作品です。ただ鳥が少し気になります。

受賞外の方で「ルーイ」を描いた石黒恵華さんや「川辺にて」桜を描いた鈴木信乃さんなど、これからも期待しております。

## ■全体的な総評■

今回の出品作品は総じて小作品が目立ちましたので、今後はもう少し大き目の作品にチャレンジしてみてください。日本画部門といたしましては、幅広い観点から選んで参りますので、挙って応募していただきたく思います。絵を描くに当たっては、主役、脇役、ポイント、何を表現したいか！！・・・結論的には、心で描くことをモットーとして楽しんでいただけたら何よりです。

## 第65回宝塚市展 会場図



## 第32回宝塚芸術展

宝塚市文化連盟に所属するアーティストの作品を展示。ハイレベルな技術と優れた感性に溢れた作品をご堪能ください。

- 会 期 11月30日(木)～12月8日(金) ※12月6日(水)は休館  
午前10時30分～午後5時30分(最終日は午後3時まで)
- 会 場 宝塚市立文化芸術センター
- 入場料 無料
- 主 催 宝塚市・(公財)宝塚市文化財団・宝塚市文化連盟
- 共 催 宝塚市立文化芸術センター(指定管理者:宝塚みらい創造ファクトリー)
- 後 援 宝塚市教育委員会

【宝塚市展 事務局】  
(公財)宝塚市文化財団  
TEL/0797-85-8844 (9:00～17:30 水・日・祝休み)  
E-mail/info@takarazuka-c.jp